

4 最終需要による粗付加価値誘発

各産業の生産活動は最終需要によって誘発されることから、その生産活動を通じて生じる粗付加価値についても、最終需要により誘発されると言えます。このように、生産誘発と同じく、最終需要を賄うため直接・間接に必要な生産額のうちの粗付加価値部分を粗付加価値誘発額と言います。

付加価値誘発額を最終需要項目別に見てみると、移輸出が1兆4,668億円で最も大きくなっており、次いで民間消費支出が1兆688億円、一般政府消費支出が6,721億円などとなっています(表24)。

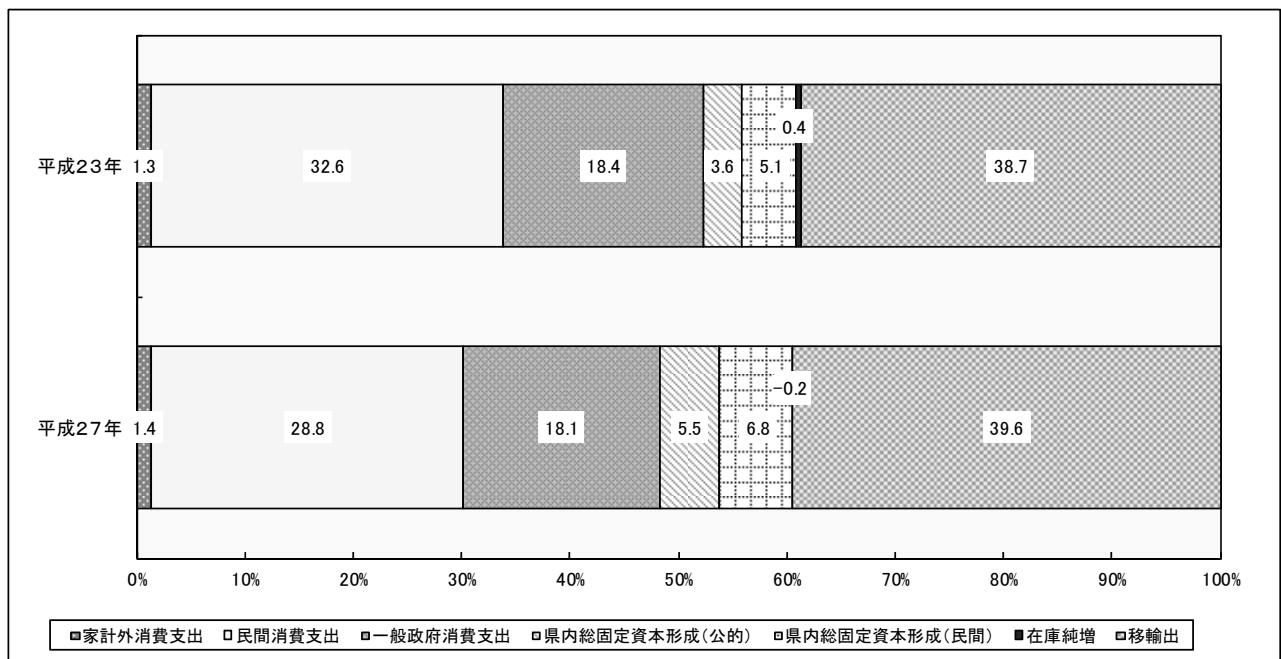
表24 最終需要と粗付加価値誘発

	粗付加価値誘発額(百万円)		粗付加価値誘発依存度(%)		粗付加価値誘発係数		
	平成27年	平成23年	平成27年	平成23年	平成27年	平成23年	
和歌山県	家計外消費支出	52,059	42,204	1.4	1.3	0.479710	0.474685
	民間消費支出	1,068,773	1,052,747	28.8	32.6	0.523200	0.513864
	一般政府消費支出	672,110	595,032	18.1	18.4	0.781493	0.781073
	県内総固定資本形成(公的)	204,389	114,843	5.5	3.6	0.552629	0.564852
	県内総固定資本形成(民間)	250,439	164,242	6.8	5.1	0.431534	0.365074
	在庫純増	-6,281	11,834	-0.2	0.4	0.100830	0.186644
	移輸出	1,466,772	1,252,111	39.6	38.7	0.533501	0.461099
	最終需要計	3,708,260	3,233,014	100.0	100.0	0.557755	0.510623

次に、各産業部門の粗付加価値が、どの最終需要項目によりどれだけ誘発されたかの割合を示している粗付加価値誘発依存度を見てみると、移輸出が最も高く39.6%と全体の約4割を占めています。次いで、民間消費支出が28.8%、一般政府消費支出が18.1%などとなっております(図20)。

また、粗付加価値誘発依存度の平成23年からの推移を見てみると、家計外消費支出、県内総固定資本形成(公的)、県内総固定資本形成(民間)、移輸出が増加していることが分かります。

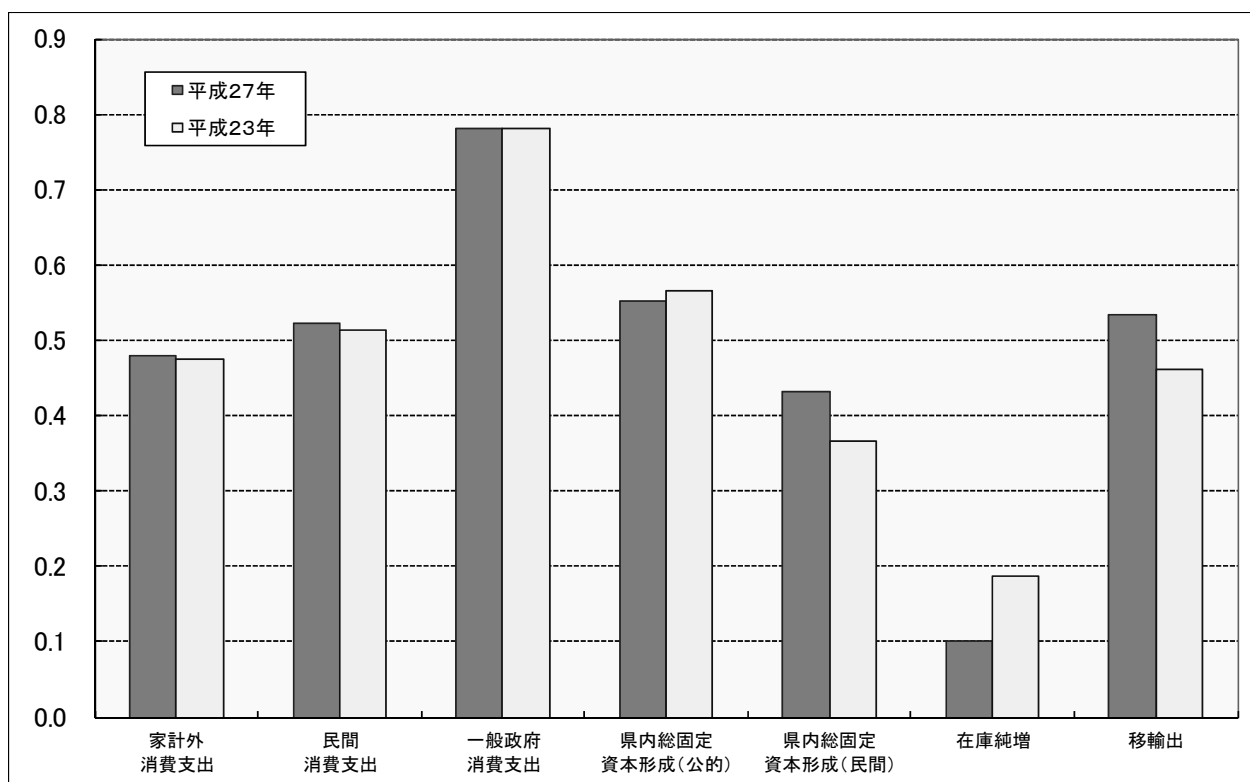
図20 最終需要項目別粗付加価値誘発依存度



また、1単位の最終需要によって、粗付加価値がどれだけ誘発されるかを表している粗付加価値誘発係数を最終需要項目別に見てみると、最も高いのは一般政府消費支出で0.781493倍、次いで県内総固定資本形成（公的）が0.552629倍、移輸出が0.533501倍などとなっています。一般政府消費支出が高い値を示しているのは、その大半を占めている、公務や教育・研究及び医療・福祉といった部門の粗付加価値率が高いためです。他の項目についても同様で、粗付加価値率の高い部門を有しているためです。

平成23年から見ると、生産誘発係数とは異なり、全体で見ると上昇の傾向となっており、平成23年の0.510623倍に対して平成27年は0.557755倍となっています(表24,図21)。

図21 最終需要項目別粗付加価値誘発係数



解説

粗付加価値誘発額 ……最終需要項目別粗付加価値誘発額合計＝県内粗付加価値額

粗付加価値誘発依存度 ……粗付加価値誘発依存度＝各最終需要項目別粗付加価値誘発額÷
最終需要項目別粗付加価値誘発額合計

粗付加価値誘発係数 ……粗付加価値誘発係数＝各最終需要項目別粗付加価値誘発額÷
各項目別最終需要額